

講壇点滴

キリストの復活

コリントの信徒への手紙一
一五章一〜五節

牧師 姜 涇 米

一五章は、パウロが、このことをせむ教え、伝えなければならないと考えて語っている所です。それは、死者の復活に関することです。死者の復活というのは、主イエス・キリストの復活のことではありません。主イエスが本当に復活したのか、そのことは事実であると前提になっています。

問題は、主イエスの復活ではなくて、私たちの復活です。私たちが、また信仰をもって死んだ人々が、世の終わりに復活し、新しい命と新しい体を与えられる、そのことについてこの一五章は語っていくのです。パウロがここでこのことをせむ語っておかなければと考えたのは、コリント教会の中に、「死者の復活などない」と言っている人が出てきていたからです。死者の復活についての間違った考え方がコリント教会の中に起ってきていたからです。

一五章の主題は死者の復活です。パウロが語り、コリントの人々がそれを信じて教会が生まれたその教えは「福音」、「良い知らせ」ですが、その福音の中心、最も大切なことが三節の「すなわち」以下に語られているのです。

キリストが、聖書に書いてあるとおり私た

ちの罪のために死んだことが福音の中心だとパウロは言います。主イエスがその地上の歩みで語られた教えやみ業をこえて、十字架の死だけが見つめられているのです。それは、主イエスの教えやみ業はどうでもよいということではありません。十字架の死は、「私たちの罪のため」でした。主イエスは、私たちの罪を背負い、私たちの身代わりになって死んでくださることによって私たちの罪を赦してくださるためにこの世に來られたのです。それが、主イエスのご生涯を見つめる上で「最も大切なこと」です。

そして注目すべき大事な言葉は、「わたしも受けたものです」という言葉です。パウロが宣べ伝えている福音は、パウロが発見したり考えたりしたものではなくて、パウロ自身も先輩の信仰者から伝えられ、受け取ったものです。パウロはその「最も大切なこと」を受け取り、それを「最も大切なこと」としてコリントの人々にも伝えたのです。それが彼のした伝道です。

そして今、パウロがここでしようとしていることは、自分が宣べ伝えたその福音を、コリントの人々にもう一度しっかりと確認させようということです。その福音を、コリントの人々は知らないわけではありません。パウロはコリントの人々に、この福音を告げ知らせ、彼らもそれを受け入れ、信じてコリント教会が生まれたのです。ところが今、コリントの人々は、彼らが受け入れ、信じたはずの福音からそれていってしまいそうになっているのです。

キリストが私たちの罪のために死んでくださった、葬られ、そして神はキリストを死者

の中から復活させてくださった、この福音の言葉を受け、それをしっかりと覚えていなければ、私たちはその福音によって救われます。そのことをしっかりと確認していきたいです。
(七月三十一日 公同礼拝)